

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号576号

発行 令和2年3月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

経済面の運営安定化に挑む——存続のピンチをバネにして——

公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

約一五〇人に達するボランティアの方々の活発な働きにより、活動面では広がりや深まりが見られ順調と言えますが、問題は経済面です。

多くの方々のご支援と、財団のあらゆる経済的資源を投じ、新築移転に成功して以来六年間、余力の乏しい中でも大口の寄附や民間の一次的な助成が次々あり、年間一〇〇万円を超える収入を確保することができました。それが今年度はバツタリ途絶え、二〇一九年末には、必要最小限の運営経費すら事欠く事態に直面してしまいました。

そこで大変恐縮なことでしたが、文庫だより一一九号を通じて、皆様へ臨時のご寄付をお願い致しましたところ、約一二〇人の方々から一五〇万円近いご支援をいただきました。本紙面を通じて深く御礼申し上げます。

しかし、それでも年度を確実に超えられる経済的目処が立たず、基本財産として残しておいた三〇〇万円を、評議委員会に決議をお願いし、自由に使える道を開きました。年度末にはそれにまで手をつけずに済むか否かです。

それが二〇二〇年度になりますと、仮に今年度のような状況で推移した場合、約三〇〇万円近い収入不足を招く可能性があります。

さすれば、基本財産から転用できるように三〇〇万円は殆どなくなり、再来年度には枯渇してしまふこととなります。

今年度は皆様へ臨時のご寄付をお願いすることで乗り切ることができましたが、その反動で、来年度の賛助費やご寄付を下さる方が大きく減少してしまうのではないかと心配をまねがれません。

すなわち、二〇二〇年度は今年度以上に危機的状況に至るかもしれませんし、再来年度は活動の継続が困難な事態に追い込まれることも予想できます。

経済的問題は、平素切り詰めている運営経費に留まりません。

新しかった施設設備の劣化に伴う修繕費等の蓄積や、物的寄付の条件として求められる何割かの自己負担金への備えも不可欠です。

もちろん、今の経済規模では、開館日数増をはじめとする新しい活動に取り組むのに必要な資金、それを支えていく事務部門の強化が必須であり、それなくば当文庫の活動も硬直化してしまうことにもなります。又、活動の殆どを手弁当のボランティアの力に頼っている活動方式も限界があります。

今直面している経済的困難は構造的な要素が強く、克服には何か抜本的な策を考えねばなりません。

当文庫の所有する固定資産は一億八〇〇〇万円あり、それを有力な素材として、借金に頼らず柔軟な資金運用に結びつけて行くことができれば、活動の長期的展望に到達することができはるはずで。

「ふきのとう文庫」が呱呱の声をあげて来年度は五十年、こうした方策が当文庫の後半世紀の歴史を開くことに結び付いて行きます。

すぐにでも多くの方々での知恵と情報をいただかねばなりません。実は私の頭の中にも実現性のレベルに大きな違いのあるものの方策がいくつもありまして、具体化に向け順次取り組んで行こうと思っております。

現段階ではそれは構想に近く、実現には二、三年を要することになります。

問題はそれまで当文庫の活動が継続して行けるかどうかです。

そんな状況をふまえた、来年度、再来年度のご支援を切にお願い申し上げます。

こんな事態を招いてしまったのは、私の鈍さと非力によるもので責任を感じておりますが今更投げ出すわけには行かず、最後の力を振り搾って挑んでまいります。どうか長い目で見た物心両面にわたるふきのとう文庫のお引き立てを重ねてお願い致します。

令和二年度の事業及び収支計画について

一、事業活動については、昨年に引き続いて殆んど前年の活動を踏襲しております。
昨年初めて加えました布の本製作事業での『布の本購入先からの依頼による修理・修復対応』は引き続き顧客の要望に応えていきます。

二、収支計画については、前年度初めて大口の寄付金と都度申請する助成金が皆無という結果に終わりそうです。
本年度は予算を縮小しながらも健全な運営に心がけてまいります。

令和2年度予算（平成31年度予算併記）

単位 千円

	令和2年度	平成31年度
賛助会費	2,300	2,600
寄付金（新規助成金を含む）	3,000	3,200
既存助成金	1,400	1,500
事業収入	2,500	2,390
雑収入		10
収入合計	9,300	9,700
管理費	5,681	6,200
事業費	3,500	3,500
支出合計	9,181	9,700
収支差益	119	0

令和2年度事業計画

一、子ども図書館の運営

- ①子ども図書館の整備と貸出し
- ②病院文庫の拡充検討

- ③貸出し本の未返却防止作業継続
- ④子どもたちとの交流を大事に

二、布の本の製作

- ①貸出し用・販売用の布の本・遊具の製作
- ②布の本・遊具の材料セットの製作
- ③既存布の本の修理
- ④病院内の図書コーナーへの貸出し・寄贈
- ⑤布の本購入先からの依頼による修理・修復

三、拡大写本の製作

- ①拡大写本の製作と貸出し
- ②弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈
- ③拡大図書の視覚支援校への配本

四、子ども催事事業

別紙日程表（3ページ左下）

五、布の本・拡大写本等の普及活動

- ①製作講習会の開催（布の本のみ）
- ②ふきのとう文庫ホームページの活用
- ③ふきのとう文庫パンフレットの作成活用
- ④多目的室での展示会の開催

六、ボランティア研修

- ①現地施設等への実態見学
- ②経験者の新人指導

七、機関誌の発行

- ①ふきのとう文庫だよりの発行（年三回）七月・十一月・三月

八、賛助会員の拡充

- ①賛助会員の拡大募集（機関誌・展示会・イベント・来館者）
- ②賛助会員拡大のための協力依頼（現、賛助会員）

九、ふきのとう文庫、活動五十周年記念行事

活動範囲を検討し、実行する。

ふきのとう文庫五十周年記念行事のお知らせ

前小林理事長が江別の自宅を開放して子ども文庫を始めてから今年で五十年が経ちます。個人の小さな文庫に大勢の人たちの力が集まり、今日に至っています。それを記念して当文庫では九月末から十月中旬までを「ふきのとう文庫五〇周年記念」の期間として様々な行事を予定しています。

現在、内容を検討中ですが、人形劇などの子どもが楽しめるものから、記念講演や五十年に渡る「布の本」「拡大写本」「子ども図書館」の歴史についても現物を交えて分かりやすく展示する予定です。

五十周年記念式典

公式式典

九月二十六日（土）

ボランティアなどの内部関係者式典

九月二十七日（日）

公開展示（多目的ホール）

九月二十七日～十月十四日の開館日



大学生の受講

二月十八日、札幌国際大学司書課程の学生一八名がふきのとう文庫を訪れ、高倉理事長から「ふきのとう文庫について」の講義を受

けました。当文庫の成り立ちやこれまでの経過、現在の活動内容などの話を、ビデオプロジェクトを使い詳しく伝えることが出来ました。また布の本を手に取りながら子どもたちが遊ぶ様子も見学していきまし



より多くの人たちに文庫のことを知ってもらい、これからの利用促進に繋げていこうと考えており、要請があれば、色々なところに出向いていきますので、連絡ください。

新しい拡大写本できました

- ✿ サンドイッチの日 吉田 道子 作
- ✿ 天の川のラーメン屋 富安 陽子 作
- ✿ お昼の放送の時間です (全2冊) 乗松 葉子 作
- ✿ 荒野にネコは生きぬいて (全3冊) G. D. グリフィス 作
- ✿ おそうじをおぼえたからないリスのゲルランゲ J. ロッシュ=マゾン 作
- ✿ よくわかる近現代史 (全2冊) 山本 博文 監修
- ✿ よくわかる近現代史・別巻3冊 (全2冊) 山本 博文 監修
- ✿ イグアナくんのおじゃまな毎日 (全5冊) 佐藤 多佳子 作
- ✿ 2分の1 成人式 (全3冊) 井上 林子 作
- ✿ のっぽのサラ (全2冊) パトリシア・マクラ克蘭 作
- ✿ てん ピーター レイノルズ 作
- ✿ 小学生のクロスロード 深谷 圭助 監修
- ✿ やさいむらのなかまたち (全4冊) ひろかわ さえこ 作

子どものためのもよおし

予定表

2020 年度上半期

- 4月 12日(日)13時30分～「うたう会」
- 19日(日)13時30分～「おはなし会」
- 26日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 5月 10日(日)13時30分～「うたう会」
- 17日(日)13時30分～「おはなし会」
- 6月 7日(日)13時30分～「札幌シンフォニエッタ」
- 14日(日)13時30分～「うたう会」
- 21日(日)13時30分～「おはなし会」
- 28日(日)13時30分～「医学生アンサンブル」
- 7月 5日(日)13時30分～「うたう会」
- 12日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 19日(日)13時30分～「おはなし会」
- 26日(日)13時30分～「腹笑会(手品・腹話術)」
- 8月 2日(日)13時30分～「世界の楽器展」
- 9日(日)13時30分～「うたう会」
- 16日(日)13時30分～「おはなし会」
- 23日(日)13時30分～「手づくりあそび」
- 9月 13日(日)13時30分～「うたう会」



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839

2019年11月以降行事一覧

11月1日	(はつとたいむ)	第8回 うたう会
11月3日	13日	木育ひろば
11月11日	京都花園大学	見学 1名
11月12日	(はつとたいむ)	第8回 おはなし会
11月15日	(アッチェコンサート)	手づくり遊び
11月17日	第9回 うたう会	見学 8名
11月24日	札幌国際大学	学生2名 見学
12月1日	第9回 おはなし会	見学
12月8日	札幌国際大学	学生2名 見学
12月15日	第9回 うたう会	見学
12月20日	(はつとたいむ)	クリスマス会
12月22日	運営会議	
12月24日	北海道教育大学教育学部学生3名	見学
12月26日	1月4日	年末年始休館
1月6日	新年開館	
1月10日	(はつとたいむ)	第10回 うたう会
1月12日		
1月17日	(はつとたいむ)	第10回 おはなし会
1月19日	伊藤忠記念財団	1名 見学
1月21日	運営会議	
1月22日	みかほ整肢園	12名
1月26日	小学生のための語りの会	
1月29日	理事会	
1月31日	(はつとたいむ)	
2月3日	図書係ミーティング	
2月4日	視覚障害者福祉連合会	1名
2月7日	(はつとたいむ)	
2月9日	第11回 うたう会	
2月16日	私立札幌開成中等教育学校	
2月21日	ボランティア活動実習3名	
2月23日	ボランティア活動実習2名	
2月28日	札幌国際大学	18名 見学
2月31日	手づくり遊び	

2020年下半期は次号に掲載します

「過去の文庫だより」から

今年でふきのとう文庫も五十周年を迎え、文庫だよりも今号で一二〇号となりますが、今回は古い文庫だよりを紹介して、その時代に何があったのか、どんな風に活動していたのかを少し紹介しようと思います。この時代は、B5の用紙を使っています。表紙の題字も縦書きで、現在の横書きの坂本直行さんのふきのとうの絵が入ったのは三一号（一九八四年・昭和五十九年）からでした。

まずは、一九八七年（昭和六十二年）の三八号です。子ども図書館開館五周年に当時児童図書館研究会の名誉会長小河内芳子さんが寄稿されたものです。

現ふきのとう子ども図書館も西野平和から移転新築して五周年を迎えました。子ども図書館をとりまく環境や社会の状況は隔世の感があります。

ふきのとう

子ども図書館

開館五周年に思う

小河内 芳子

「ふきのとう子ども図書館」が今年開館五周年を迎えられることを喜び心からお祝い申し上げます。わが国では、公共図書館活動が欧米にくらべ大変おくれたため、子ども文庫や親子読書運動がおこり、公共図書館と児童奉仕活動の拡充に大きな役割を果たしています。そこから「すべての子どもに読書の喜びを」という標語も生まれましたが、障害をもつ子、入院中の子らへの読書サービスはおくれたいました。それらの子への読書のもつ役割が一般にはよく理解されていなかったからです。養護施設や学校でも、肢体不自由児や知能、精神に障害をもつ子らに対し、日常生活機能の訓練に主に努力が払われていて、読書の与える影響にはあまり関心が払われていませんでした。

欧米では、公共図書館の児童サービスの一部として病院の子どもへの読書サービスが行われていると聞いてはいても、そこまで手が廻りかねるという状態でした。

そんな中で、日本の役所のやることなど待ってはいられぬと「ふきのとう文庫」が障害児や入院児に本を貸す仕事を始められたのは正しく、障害児サービスの発展に何と大きな役割を果たしたことでしよう。

文庫は財団法人となり、全国に十一の仲間文庫をもち、病院内文庫は三十六か所となり、拡大写本や布の絵本の素晴らしいものを沢山生産し、貸出図書郵送料半額の特典を獲得し、それらの活動の根拠地としての「子ども図書館」は五才になりました。

ふきのとうの活動に刺激されはげまされて養護施設や学校で、絵本や童話の読みかせ、語りきかせで子どもらを楽しませている人がふえています。その実践を通して絵本や童話の楽しみは、子どもらの閉じこもり勝ちな心を解放し、

明るく豊かに安定させ、生きていく力を強く育てること、それはすべての子に共通した読書の与える力だということも解ってきました。障害児、入院児への読書サービスの実践は、「ふきのとう子ども図書館」の活動と共にひろがってきました。こうした活動の情報を集め交流し、学習し、研究しあう全国的な組織も必要になってきているのではないのでしょうか。勿論何もかも「ふきのとう」でという訳にはゆかないでしょう。「ふきのとう」に目を覚まされた公共機関の人びとが考えるべきかもしれません。

同時に「子ども図書館」をより発展させるためにどうするかを、「ふきのとう」の恩恵をうけている人びとが真剣に考える時期ではないでしょうか。いつまでも「ふきのとう」に頼りきりではないけないのではないかと、五才になった「子ども図書館」を思い浮かべながら考えさせられています。（児童図書館研究会名誉会長）

次は、一九九一年（平成三年）の四五号です。布の本製作ボランティアの近藤澄子さんが全国障害者問題研究会の大会に参加したときのものです。障がいをもつ子どもたちにとってどんなものが必要なかを再度考えさせられた様子が書かれています。また、布の本を日本全国どこにでも貸し出しすることに対して喜ばれている様子も分かります。当文庫は今でも無料貸し出しを続けています。



「布の本」作りをしてほんとうによかった！

——全障研大会で布の本展示をして——

近 藤 澄 子

八月三日～五日、千歳市で開催された全障研大会に、拡大写本・布の本を展示することになり、三日に搬入して、四日朝から千歳中学校で展示しました。

午前八時半頃より千歳中学校会場に出席された方達が展示本を見に来ました。

「布の本を見るのは初めてです」「この拡大写本は一字ずつ手書きですか」「絵も自分で色ぬりするのですか」「製本もプロに頼まず作るのですか！」とか、みなさんはとても驚き感心されていました。

私は、見ている先生方に、「どの様なものが実際に役立つのか教えてください。」と、尋ねてみました。

先生方からいろいろと希望が出されました。中には、「こんな勝手なこと言ってごめんなさい。」

と、おっしゃる人もありましたが、とても貴重なご意見でした。

四日早朝展示する際、お話、童謡など適当に分けて並べましたが、篠尾先生が何か考えながら一冊ずつ置きかえていかれました。その理由は現場の先生方がいらして、その反応を見てすぐ理解できました。

私は子供達に必要なもの、役に立つものを理解しているつもりでしたが、実際はほんの一部しかわかっていないことに気づきました。昭和五十九年に東京から青山均先生がふきのとう文庫に来館された折、布の本を一頁ずつ手にとっているのを見ると指摘され、子供達にとって何が必要なのかを教えてくださいました。

私はその時のことを少しずつ忘れていっているのです。今ここで同じことを教えられました。

また、このようなこともありました。

ほとんどの人が、拡大写本や布の本が無料で貸し出されると聞いて「本当ですか？」と念を押されるのでした。

「このようなすばらしいグループがあることを知らなかったわ。ふきのとう文庫の人達に出逢えてよかったわ」

とも言ってくださいました。

兵庫県の人が「私達はとても遠いのですが、お借りできますか。」篠尾先生が「ええ、日本中どこでもいいですよ。沖縄でも送りますよ」と言われたら、

「わあ！」と囲りから歓声が上がりました。

本当に布の本作りをしてよかったと思えました。年々目も悪くなり、手の動きも鈍く、思うように仕事はできませんが、囲りにとられることなく自分なりに納得して、無理をせず布の本を作っていきたいものと思っております。

（布の本製作ボランティア）

◆図書係の日常

水曜ボランティアの場合

毎週水曜午前十一時、絵本二冊と紙芝居一点、僅か十分程度のささやかなミニお話し会が始まります。

きっかけは、学校で読み聞かせ経験のあるメンバーからの提案。

うまくいくか、続けられるか、人が集まるか等々、メンバー一同一抹の不安を抱えつつも、ふきのとう文庫のモットー「すべての子どもに本の喜びを」を合言葉に彼女の提案に賛同し、二〇一六年七月二十六日、お話し会をスタートさせました。

あれから三年半余り。二月末で一八〇回を数え、三六〇冊の絵本と一八〇冊の紙芝居を読み、延べ二四〇〇人を超える子ども達、保護者、保育関係者等が聞いてくれたことになりました。こうして数字にしてみると何だかしみじみ感慨ひとしお。

とは言え、時には全く人が来ないなんてことも。でも、転んでもただでは起きない私達。そんな時は急遽研修会に変更し、メンバーだけのお話し会となります。

また、最近では来館した子ども達の帰る時間に合わせて早めに始めたり、二回行ったりと、臨機応変な対応もできるようになってきました。まさに継続は力なりです。

〈メンバーの声〉

●「子ども達がどんな反応をしてくれるかな？」と悩みながら本を選んでいますが、子ども達と共に楽しいひと時を共有することができてうれしく感じています。

●「毎週きょうは何人来てくれるかなあ」と思いながら準備します。約四年間の中でとても印象に残っているのは初めて紙芝居『ニャーオン』を読んだとき、子ども達の大きく見開いた眼が並んでいたことです。

●お話し会に来てくれるお子さん達の純真な反応に元気をもらっています。より楽しんでいただけるよう、工夫できればと思います。

●とにかく続けることが大事だと思っています。他の方の読み聞かせはとても勉強になり、参考になります。楽しんでやっています。

☆☆☆☆☆☆☆☆

そして午後。第二、四水曜の十三時から十六時の閉館まで……を大体の目安に折り紙の会を開催しています。

折り紙の会を主宰する先生は、お孫さんが幼稚園から持ってきた折り紙を手にして、その折り方に興味をもったのをきっかけに折り紙に出会い、知人から水曜ボランティアに誘われたのを機に、二〇一七年九月から折り紙の会を始めています。

今や海外でも注目され、日本の伝統工芸の粋を超えアートとも言うべき折り紙。一枚の紙が折り

方次第で、いろんな形に変身する。絵本も楽しいけど、そこで折り紙に出会い違う楽しみも見つけられると、それもまた嬉しいことです。

☆☆☆☆☆☆☆☆

ボランティアの利点はいろんなことを経験した人々の集まりであることを実感します。そんないろんな人の経験を生かしながら、これからも子ども達との楽しい時間をつくっていききたいと思っています。



水曜午前11時からのミニお話し会。只今ボランティア奮闘中。

賛助費・寄付・寄贈、ありがとうございます

前号では、当文庫の厳しい財政状況についてご支援の依頼をいたしました。昨年十一月から一六二名という多くの方からのご寄付を頂いたところです。今後とも大切な浄財を当文庫の健全な運営に役立てていきたいと思います。支援された方々のご芳名を掲げさせていただきます。今後とも、賛助会員の継続、ご寄付の申し入れなどをお願いいたします。

2019年11月以降賛助会費納入一覧

安藤 淑子	上出麻希子	碓井トミ子	遠藤知恵子
大野 公子	熊野 清子	栗原 秀樹	斎藤美年子
佐々木扶美子	重泉 敏聖	重野 正子	鈴木美津子
武田 忠和	竹野内ゆかり	徳尾 雪子	長野光甫子
西村 育代	濱崎 京子	福田 都代	古川 順子
榊田 泰司	松岡 享子	宮城 幸子	村松 晶子
横山 優			
ごう在宅クリニック・院長	中嶋 豪		
北海学園大学同窓会			

2019年11月以降寄附金納入一覧

青山 誠	阿久津政行	阿久津良二	飯村 俊幸
五十嵐直子	石川 悦子	石川 一美	石川 浩
伊勢 成子	市川 由美	市川 大祐	伊藤 静雄
因幡 一男	猪股久美子	碓井トミ子	内田 和浩
宇山 照江	運上 敏明	大内 和子	大塚 宏哉
大辻 秀夫	大庭カヲル	岡田 桂子	岡田 智雄
岡田有利子	岡田 良子	岡安 美幸	奥野 和弘
小倉 忍	押田 法明	小田嶋文彦	攪上 久子
加藤 知美	加藤 紀夫	角田 順子	金澤 幾子
鎌田 勇一	上條 尚子	加森久美子	川口谷 正
川波 和芳	菊井 淑子	喜多 宏明	北構 保男
北川 恭三	君島 道明	木村 淳子	桐澤 藍根
工藤 剛治	久保田 亨	栗原 博子	黒柳 俊雄
桑原 佳子	合田 一道	幸田忠五郎	國澤 敏子
小林 立見	小松 徹	小林 寛	駒井 秀子
小柳 裕彦	近藤 龍夫	斎藤 洲男	斎藤トキ子
斎藤 仁史	斎藤美年子	榊原 郁子	佐々木扶美子

佐藤 一夫	佐藤 靖範	佐藤 和子	繁富よしえ
白戸 一秀	陣内 尚子	神内 紀子	末永 範子
菅原 睦子	杉崎 政明	鈴木 隆	鈴木 智子
宗本 和博	高倉 嗣昌	高下 圭一	宝本 博雄
高野 葵	高橋 勝治	高橋 光彦	高橋みどり
宝本 英明	宝本 昌紀	宝本 陽子	滝沢 恵子
竹田久美子	武田 忠和	竹田 義秋	竹野内ゆかり
館田 勝久	田中 清	田中 秀樹	田仲 陽子
谷敷 昌秀	谷村 和子	小間海多喜子	土居 安子
當瀬 規嗣	栃内 香次	富山 昌子	中垣美智子
中北もと子	仲宗根祥子	中田 和代	中野 満夫
中村 務	中山 芳子	西川 平治	西本 千春
沼田 維雄	根子 香代	野崎 美江	野田 龍一
芳賀真理子	橋爪 侑子	畠山 節子	畠山 昌子
花岡 麻子	花岡 陽一	馬場イシ子	林 孝子
檜垣 正志	平野 和男	廣澤 元彦	福井 睦子
福島 敏幸	藤井 雅裕	藤島 京子	藤島 亮一
藤田 宮子	藤原 大輔	前田貴美恵	昌川 吉子
丸山 雄	三浦 一彦	三上 節子	三ツ井 稔
宮本 弘子	村上 稱美	村雲佳代子	名和ワキエ
盛野 祥子	八島 昭雄	柳瀬 幸弘	山崎 翠
山下 修	山田 結菜	山中 三知	山本 安雄
吉野 昌子	米原 悦子	渡邊 一弘	渡邊 高次
渡辺 俊子			
あつちえ			
(株) K&I			
(株) エス・アイザックス商会			
(株) 札商管財公社			
(株) 恵秋園・代表取締役 永田恵秋			
アークスグループ労働組合連合			
アンサンブル・フラテ			
(医) 社団 阿倍小児科医院			
おのだ眼科			
学校法人 桜蔭学園			
近藤工業 株式会社			
志洋商事(株)			
生活クラブ生活共同組合			
関口・鷺見法律事務所			
ふたご座			

2019年11月以降寄贈一覧

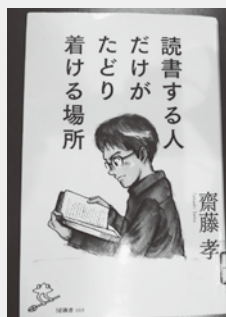
ベリシア	前田倉庫(株)	円山キッズステーション	PAL	児童書 1冊
ラベンダー法律事務所	リコージャパン(株)	六花亭製菓(株) 代表取締役・佐藤哲也	第一生命労働組合	(株) 偕成社
11月8日	偕成社			児童書 1冊
11月10日	呉 季陽			絵本 1冊
11月22日	周 芝安			絵本 1冊
11月20日	今泉 賢二			書籍 2冊
12月1日	童心社			絵本 1冊
12月2日	日本獣医師会			書籍 2冊
12月8日	学研			児童書 1冊
12月10日	全国PHP友の会			冊子 1冊
12月15日	福岡 諭			布地 1冊
12月16日	(株) 恵秋園			花 1冊
12月17日	学研			児童書 1冊
12月25日	童心社			絵本 2冊
12月26日	奥野 和弘			切手 多数
1月7日	図書館ネットワークサービス			絵本 10冊
1月8日	偕成社			書籍 57冊
1月17日	柏艸舎			絵本 1冊
1月31日	札幌市えほん図書館			冊子 1冊
2月2日	熊平製作所			書籍 1冊
2月3日	偕成社			冊子 2冊
2月7日	寺尾 直子			絵本 1冊
2月21日	佐竹 貫裕			絵本 3冊
2月23日	童心社			絵本 1冊
2月26日	呉 季陽 (こ・きはる)			児童書 1冊

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
12	MY BOOK	200円	3320円	17	むし	200円	2230円	遊具	やさいセット(8種)	なし	600円
	このいろなあに		3850円		ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
13	のりもの	200円	1620円		さかな		1720円		どうぶつとなかよし	なし	1600円
	だれのうち		3320円		わっ!	なし	1720円		おいしいね!	なし	1600円
14	Greeting	200円	3030円		ドレミのうた	なし	5020円		おはな	なし	1600円
	おやつ		1720円	新作	ばあ!	なし	2200円		のりいたいな	なし	1600円
15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円		うみのともだち	なし	1600円
	どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円		とりのなかま	なし	1600円
									どうぶつだいすき	なし	1600円
									とり	なし	1600円

2019年8月1日より、材料等の高とうによる材料セット価格の改定をいたしました。



読書する人
ただが
たどり
着ける場所
齋藤孝

（図書係 田上）

数年前から読み始めた『月報国立国会図書館』では、規模は大きく違っているが、同じ図書館で働く人たちの思い、考え方を知り、共感を覚えた。特に東日本大震災の被害を受けた図書館への支援などの記事を読み、図書館の仕事の奥の深さを感じている。

デジタル化が進む図書館業界の中、こちんまりと昔ながらの手書きカード方式のふきのとう文庫も良いのでは、と思う今日この頃である。

つ視野を広げていきたいと思う。

馴染みのない本に入り込むのはなかなか難しいが、今は『中国古典の言行録』や『史記の風景』（どちらも宮城谷昌光著）などの本を手取るようになった。これからは少しずつ視野を広げていきたいと思う。

特に「思考を深める本の読み方」あたりを読んで、自分のかたよった読書傾向に歯止めをかけたくなった。書店などで今までは日本文学や児童文学に関する本、絵本などにばかり目がいついていたが、この数ヶ月、本の内容を気にせずにランダムに手に取った本しばらく読む方法を試している。

書棚より

あとがき

昭和の時代の文庫だよりを載せてみたが、今とは違う内容だ。当文庫が目指すもの、また文庫に対して利用者の望むものも変化しているのか。

また、他にはインフルエンザやSARS（二〇〇三年）が流行して大変だったことが書かれている号もある。今回は新型コロナウィルスについて載せておかなければ。このために、文庫初の長い休館を余儀なくされ、予定していた「布の本・拡大写本展示会」も延期となった。図書館の使命を考えつつ、感染被害を拡散しないことと秤にかけての決断だった。今号が発行される時には、収束の方向が見えればいいがと願いつつあとがきを書いている。

（野田 記）

編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高 倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail: fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

令和 2 年 3 月 10 日 発行

毎月 10 日 発行 一部 100 円（維持会費に含む）

昭和 48 年 1 月 13 日 第 3 種郵便物承認

HSK 通巻 576 号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細 川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。

維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。